2　地理歴史・公民

学校番号	１００９

令和２年度　公民科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	２単位	年次	１年前期
使用教科書	現社 315　最新現代社会　新訂版　（実教出版）						
副教材等	フォーラム現代社会（東京法令出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・社会という空間を感じる。
・社会的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

2　学習の到達目標

・現代社会と人間について、広い視野に立って理解を深める。
・現代社会の基本的な問題について、主体的に考え公正に判断する力や、人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養う。
・自らの個性を発揮し、文化・福祉の向上、発展に貢献する能力と、平和で民主的な社会生活の実現、推進に向けて主体的に参加・協力する態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	授業態度、発問評価、小テスト、ワークシート、レポート	定期考査、授業態度、発問評価、小テスト、ワークシート	定期考査、授業態度、発問評価、小テスト、ワークシート	定期考査、授業態度、発問評価、小テスト
	〔主題学習〕 振り返りシート	〔主題学習〕 レポート 報告会での発表内容	〔主題学習〕 ポスター	〔主題学習〕 内容のまとまり

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

期 学	名 単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
中間まで	第1部 わたしたちの生きる社会	第1章 地球環境問題 第2章 資源・エネルギー問題 第3章 生命科学と情報技術の課題	○	○	○	○	a 地球環境問題の現状について把握するとともに、これらの問題は自分たちにとって身近な問題であることに気づく。 b 人類の福祉という観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察する。 c 資源・エネルギーの利用において国家間の利害が衝突している現状を資料などを用いながら認識する。とくにエネルギー問題にあっては、国内の情勢だけでなく国際的な動向にも注目し、原子力や再生可能エネルギーによる発電がどうあるべきか考察する。 d 情報化社会における課題を踏まえたうえで、情報化社会に生きるためのモラルやルールについて、どのような規制や法整備によって調整をおこなっていくべきか考える。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2部 現代の社会と人間	1 青年期の自己の形成 第1章 自分らしく生きる 第2章 人間としてよく生きる 第3章 日本人としての自覚	○	○	○	○	a 青年期の意義と自己形成の課題について考察し、青年としての生き方を自覚する。 b 倫理や進路指導と関連して考える。 c 先哲の思想や宗教の意義について、原典資料やメディアの報道に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察する。 d 現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成されるのか、さまざまな思想家の主張を比較・考察し、自己の確立を目指す。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

	第2部　現代の社会と人間	2　現代の民主政治と日本国憲法 第1章　現代国家と民主政治 第2章　日本国憲法の基本的性格 第3章　日本の政治機構と政治参加	○	○	○	○	a 世界の主な国の政治体制を比較しながら理解するとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考える。 a 日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義などを理解し、民主政治において主体的に生きる人間としての在り方生き方を考える。 a 議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解するとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深める。 b 民主政治のもとでは、国家の行為に対して最終的には国民自らが責任をもつことになることを理解する。 b 法に関する基本的な考え方を身に付ける。 c 新聞などを調べ、記事を考察する。 d 政治・経済、日本史や世界史の学習内容を考察し、主権者としての心構えを準備する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
期末まで	第2部　現代の社会と人間	3　現代の経済社会と国民生活 第1章　現代の経済社会 第2章　日本経済の特質と国民生活	○	○	○	○	a 激動する経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察する b 金融の意義や役割を理解するとともに、金融政策の目的と手段について理解する。 c 新聞記事を題材にし、現実の動きと関連させて理解する。 d 政治・経済の学習内容と関連して考える。 a 都市型・生活型公害や身近な環境汚染の事例をもとに、その解決には法整備だけではなく、個人や企業にも社会的な責任が課されていることに気づく。 b 近年の雇用や労働の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から考察する。 c 資料を用いて、人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解するとともに、医療・介護・年金などの保険制度にみられる現状と課題を理解する。 d 近い将来、社会に出て労働者になることの自覚のもとに、労働環境に関する諸問題に気づき、望ましい労働法制のあり方を考える。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

	第2部　現代の社会と人間	4　国際社会と人類の課題 第1章　国際政治の動向	○	○	○	○	a 主権や国際政治、国際経済などの諸問題を理解し、国際社会における日本の役割や日本人の生き方を考える。 b 国際政治は国連を中心として、国際経済は貿易や為替を中心として身近な問題として考える。 c 新聞記事などを調べ、現実の最新の動きと関連させて考える。 d 政治・経済、日本史や世界史の学習内容も考察する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
期末まで	第2部　現代の社会と人間	第2章　国際経済の動向と国際協力	○	○	○	○	a 国際経済は、輸入品の価格や海外旅行など身近な例で考える。 b 情報通信技術の発達や世界的な規制緩和により、経済のグローバル化が展開していることに注目するとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察する。 b 経済のグローバル化が進むなかで、わが国がどのような対外政策を進めつつあるのか考察する。 b 経済協力や国際的な援助の在り方について、国家間の方策だけでなく、ＮＧＯやＮＰＯなども重要な主体となっていることを、その理由とともに考察する。 c 新聞記事などを調べ、現実の最新の動きと関連して考察する。 d 政治・経済、日本史や世界史の学習内容も考察する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第3部　共に生きる社会をめざして	1. WTO 体制と発展途上国 2. 個人の自由と持続可能な社会	○	○	○	○	a 一般的な貿易製品やフェアトレード認証製品等を調べ、様々な貿易の試みがあることを理解する。 b 持続可能な社会の形成に参画することを自覚し、多文化共生社会を実現させるために必要な個人の在り方生き方について考察する。 c 新聞記事などを調べ、現実の最新の動きと関連させて考察する。 d 政治・経済、日本史や世界史の学習内容も考察するとともに、世界のグローバル化に適応できる力をつける。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。